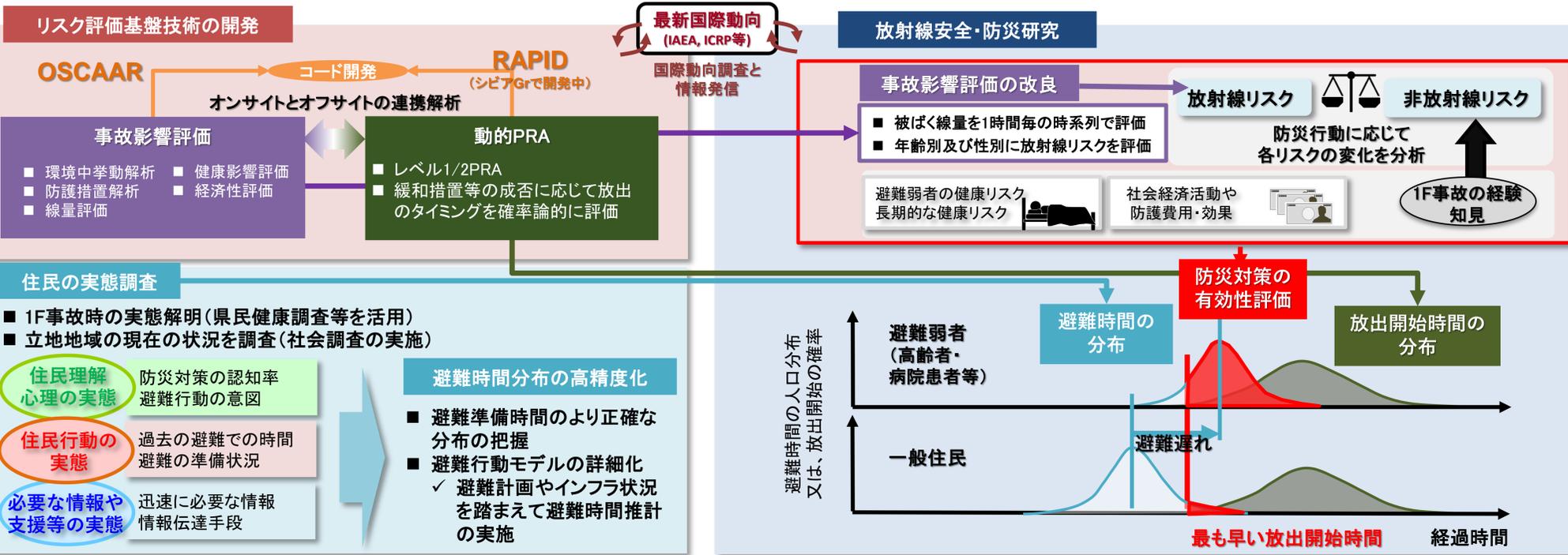


研究の目的と概要

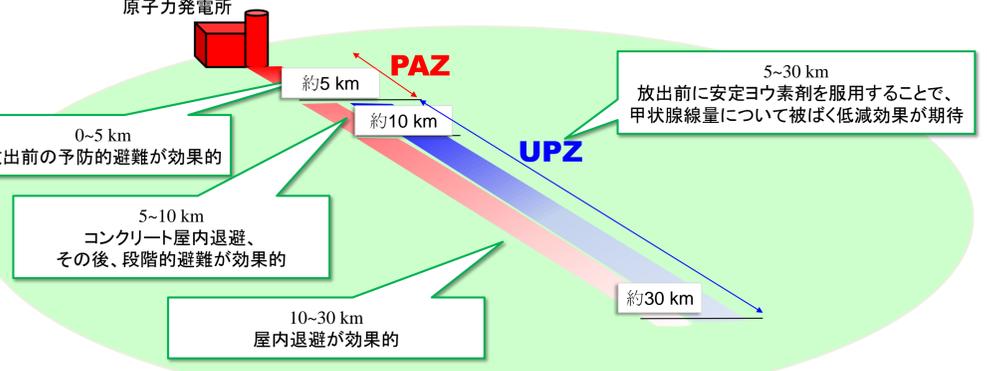
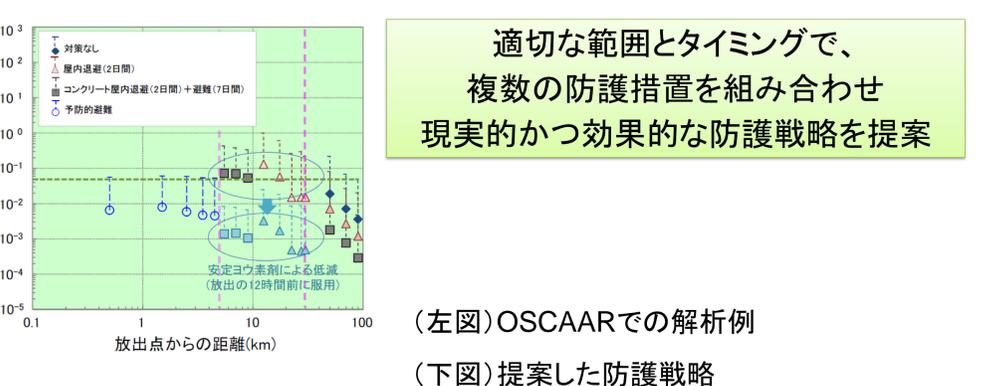
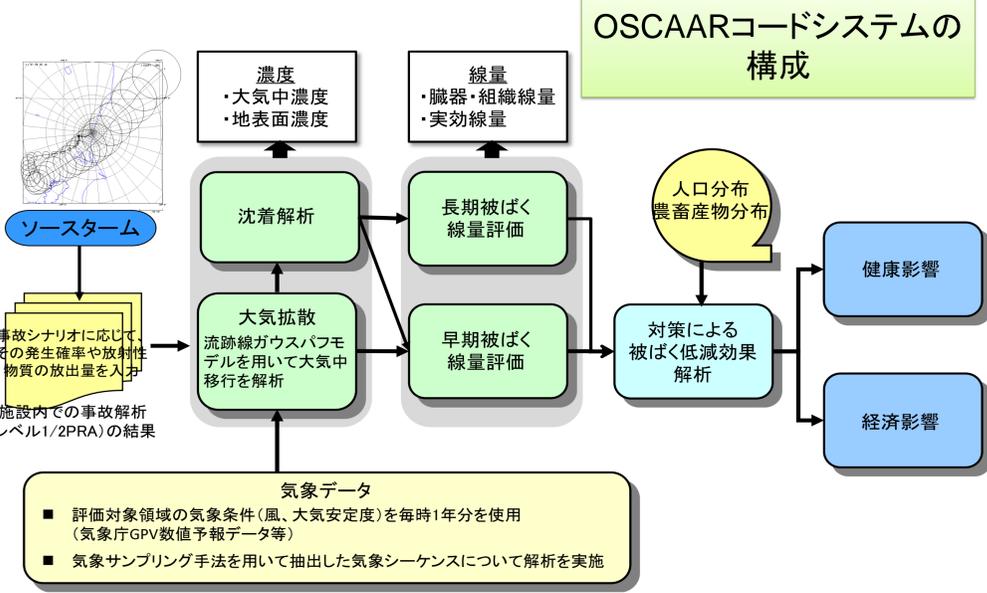
- リスク評価基盤研究を着実に遂行するとともに、放射線安全・防災分野への応用研究を推進する。
- 原子力災害時の住民行動や原子力防災に関する住民理解や住民行動を反映し、原子力防災の実効性向上に資する。



研究の内容

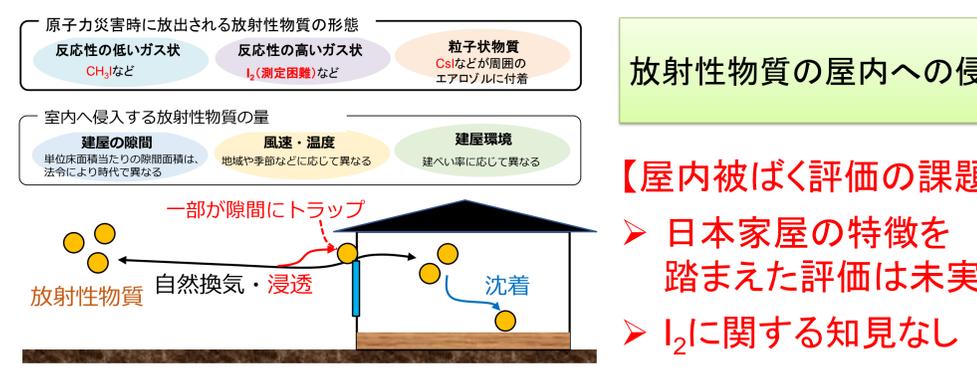
OSCAARコードを用いた原子力防災対策の提案

【OSCAARコード】レベル2PRAで得られたソースタームをもとに、大気拡散・沈着解析、被ばく評価及び防護措置解析を実施する一連の評価・解析手法を統合した計算コード。

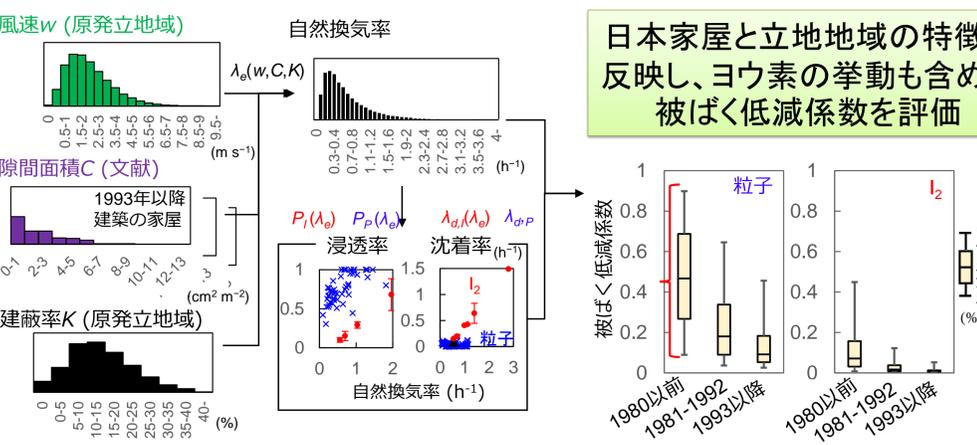


屋内退避による被ばく低減効果の評価

【屋内退避】住民の被ばく線量を低減するための防護措置の一つ。UPZ内の住民は自宅への屋内退避が計画されている。



- 屋内への侵入に関する物質移行モデルの開発
- モデルの解析に必要なパラメータ値を実験で明らかにし、日本家屋のための被ばく低減係数を評価



成果と今後

- リスク情報を活用した安全規制に貢献
- 地域防災計画の策定において、住民の安全を確保するための適切な防護措置の実施範囲とタイミングを提案。屋内退避や避難の防護措置モデルの改良を実施。動的PRAとの連携を通じて、事故進展に対する防護措置のタイミングをずらして有効性評価を実施予定 (今中長期中)。
- 住民や地域の実状に基づく最適化の実施
- 災害時の住民行動や防災計画への住民理解などの実状について社会調査を実施中。また、放射線安全・防災研究を通じてその改善方を検討予定。